



農業保険実施能力向上プロジェクト ニュースレター

2022年10月

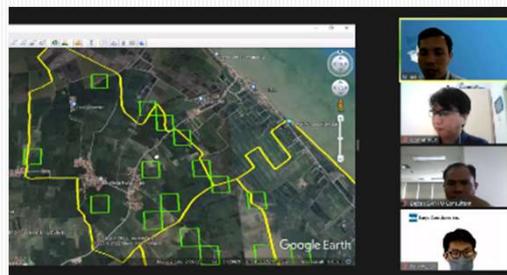
リモートセンシング活用に関する勉強会を開催

8月30日にボゴールでリモートセンシングに関する勉強会を開催しました。勉強会にはプロジェクトの実施機関に加え、BRIN(国立研究革新庁)とIPB(ボゴール農科大学)が参加し、インドネシアにおいて水稻の収量推定を行う際のリモートセンシング技術の適用可能性と分析方法について情報共有を行いました。実損補填型農業保険と比較し、インデックス型農業保険では、サンプリング調査を通して得られる収量データの信頼性を評価するために、リモートセンシングの技術を活用できる可能性があります。プロジェクトでは、西ジャワ州カラワン県の15カ村においてインデックス型農業保険のパイロット活動を実施しており、2020年の後期作付け期と2021年の前期作付け期を対象に、収量調査のためのCCE(ツボ刈り調査)を実施し、その結果とリモートセンシング調査の結果の比較を行いました。SAR(合成開口レーダー)センサーを優先的に採用した調査では、LAI(葉面積指数)と収量の相関は限定的であるとの結果が得られたことから、今後リモートセンシングによる正確な収量の推定にはさらなる研究が必要と考えられます。また、BRINとIPBの専門家も最新の研究結果を紹介し、農業分野のデータ活用に向けた今後の研究可能性について協議しました。



収量インデックス型農業保険(AYII)定期モニタリング

プロジェクトでは、現在西ジャワ州カラワン県において3作期目、中部ジャワ州ケンダル県において1作期目のAYIIパイロット事業を実施中であり、各県とも1,000ヘクタールの加入を目指しています。これらの県では2週間ごとにオンラインで情報共有を行い、保険制度に関する周知や啓発、説明会の開催、保険の販売や登録に関する各種手続きの進捗状況などを確認しています。問題が発生した際は解決方法を話し合い、今後の保険の販売やその手順、さらにはガイドライン改訂に向けた経験共有を行っています。また、カラワン県ではこれまでに実施した2作期のパイロット活動において発生した保険金の支払い手続きに関する問題や課題を整理し、解決に向けた取り組みを行っています。今後、すべての対象地域において保険販売が終了した後、今期全体の振り返りと見直しを行う予定です。



↑ オンラインでの状況確認とCCEの様子